

みらい戦略一括交付金 プロジェクト自己評価調書（平成27年度分）

団体名：舞鶴市

プロジェクト名	3つの京都推進プロジェクト（舞鶴市）	実施期間	平成27年度	テーマ	その他（3つの京都）	新規・継続の区分	新規
地域における現状、課題及び住民ニーズ	<p>地域創生の実現のためには、地域の魅力を最大限に引き出し、交流人口の拡大・産業の振興を図ることが必要である。特に、3つの京都に関しては以下の課題があり、これらの克服を図る。</p> <p>《海の京都》 観光資源は豊富であるにも関わらず、景観整備やコンテンツが不十分である。また、観光資源が点在しており、周遊するシステムが十分に整備されていないため、日帰り観光客が多く地域経済への波及効果も限定的である。</p> <p>《森の京都》 担い手不足や木材価格の低迷などにより集落機能の維持・管理が困難になっており、新たな視点で森資源を活用する必要がある。また、森林の公益的機能が低下することや森の文化の継承が困難であることについて懸念があり、野生鳥獣被害への対応も求められている。</p> <p>《お茶の京都》 文化や産業の衰退にもつながる、消費の減少や生産者の高齢化が進んでいる。地域全体としての発信力に欠け、相乗的な経済効果を生んでいない。また、宿泊施設が少なく日帰り観光が可能で、魅力的なコンテンツや回遊システムが十分に整備されていないため、一人当たりの観光消費額が低い。</p>						
プロジェクトの目的及び概要	<p>豊かな自然や長い歴史に磨かれた地域の資源や特性を活かし、市町村と府が連携して総合的かつ計画的に特色ある地域づくりを進める。産業・観光を振興することを目的とする。</p>						
	総事業費（千円）	8,448	本年度事業費（千円）	8,448	交付金額（千円）		4,222
プロジェクトを構成する事業の平成27年度事業実績(出来高数値等)							
事業分類	事業名	事業種別	事業概要		主な実績（出来高数値等）		
市町村 実施事業	赤れんが観光戦略拠点化事業	交付対象事業	赤れんがパークのブランディング（サマーイルミネーション）の実施・情報発信など		赤れんがパークでナイトイベント「舞鶴赤れんがパークサマーイルミネーション2015」を開催し、夜の魅力を発信するなど集客に努めた。（9日間：来場者7000人）		
	京都舞鶴港を活用した人流拡大事業	交付対象事業	多国籍に対応したまち歩きマップ作製による大型クルーズ客船の誘致活動及び寄航対応		英、露、中(繁、簡)、韓国語のまち歩きマップの作成により、誘致活動を実施(クルーズ船による乗船客は約5,400人)		
住民 協働 事業							
住民が 取り組む 事業							

みらい戦略一括交付金 プロジェクト自己評価調書（平成27年度分）

団体名：舞鶴市

成果指標①	成果指標の目標数値	赤れんがパークの来場者数（50万人）		成果指標の実績値 (28年3月31日時点)	397,167人
	成果指標の達成状況	○	(左の理由)	赤れんがパークにおいて、発信力の強いイベントを実施した結果、目標とする来場者数に向けて順調に上積みすることができた。	
	成果指標の実績値が更新できない場合は、その理由及び更新時期		(理由)		(時期)
成果指標②	成果指標の目標数値	クルーズ客船の寄港回数（平成30年度：20回）		成果指標の実績値 (〇年〇月〇日時点)	8回
	成果指標の達成状況	△	(左の理由)	平成26年度は15回寄港したが、平成27年度は26年度に多数寄港したクルーズ船の寄港がなかったため。	
	成果指標の実績値が更新できない場合は、その理由及び更新時期		(理由)		(時期)
本年度の事業実績が成果指標の達成に与えた効果 ※未達成の場合も効果を記載すること	赤れんがパークサマーイルミネーション ⁿ 来場者数が多く、海の京都の魅力発信に貢献した。また、外国人向けの街歩きマップを作製・配布することにより、外国人観光客のおもてなし向上に取り組んだ。クルーズ客船の寄港回数は昨年を下回ったものの、引き続き乗客の満足度向上を図り、継続して人流の拡大に取り組む。 ※未達成の場合は、成果指標の達成に向けた今後の対応方策についても記載すること。				
本プロジェクトに対する自己評価	関連事業との連携効果				
	府と市町村等との連携に資する成果	京都府及び一般社団法人舞鶴港振興会と連携の下、効果的なポートセールスの実施等により、一定のクルーズ客船の寄港を実現した。			
	住民の自治意識を高める成果				
	リーディング・モデル成果	サマーイルミネーションなど、インパクトの大きな事業を実施することで、観光客の増加を図り、海の京都の魅力発信に貢献できた。			
	広域的波及成果	クルーズ客船の誘致に取り組み、海の京都観光圏内の外国人観光客の増加に貢献できた。			
	行財政改革に資する成果				
	その他の成果				

(記載要領)

- 1 プロジェクトごとに本様式を作成し、評価すること。
- 2 記載欄が不足する場合は、適宜追加すること。
- 3 事業種別については、交付対象事業又は関連事業の別を記載すること。
- 4 成果指標の達成状況は、目標数値を上回ったときは◎、目標数値の近似値であるときは○、目標数値を下回ったときは△、判断できないときは—を記載すること。